

保健体育科 研究の概要

◇ 主題

運動の特性を視点に、動きと作戦の関係を分析することを通して、より有効な動きへ改善・向上を図っていく授業

◇ キーワード

デジタルポートフォリオ
タブレット端末の活用
映像、モデル資料、作戦盤による対話的な活動の活性化



◇ 育てたい生徒像

運動の課題を解決するための練習や作戦を自ら考え、仲間と改善の方法を話し合い、主体的に運動やスポーツに取り組んだり、かかわったりしようとする生徒

1 単元名 球技 ネット型 バドミントン (3年)

2 目標

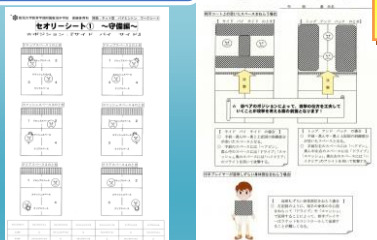
- 様々な設定での練習ゲームの中で、蓄積した映像を振り返り、視点を基に分析する活動を通して、自ペアにとって「有効なプレイ」の説明とそれを成功させるための練習方法を説明することができる。
- チーム内ペアとの問題解決練習を通して、自ペアにおける有効な動きだと判断するプレイを複数組み合わせ、ゲームにおいて発揮することができる。

3 具体的な手だて

1. 意味ある文脈での課題設定

モデル映像と自ペアのプレイの違いを実感し、どうしたら「有効なプレイ」を発揮することができるのだろうかという問いをもつ単元構成とする。

授業の実際



リオ五輪日本代表女子ペアのゲーム映像を視聴し、ダブルスゲームでの動きの特徴を読み取らせた後、試しのゲームに取り組ませる。

攻防における「セオリーシート」を提示した後、「セオリーシート」に示された内容を実際に練習させ、試しのゲームにて試行させる。

攻防における「セオリーシート」の内容を踏まえて、自ペアのプレイを客観的にとらえるために、タブレット端末でプレイを撮影させる。



撮り貯めた「デジタルポートフォリオ」を振り返り、自ペアにとって「有効なプレイ」となりそうな攻撃を見いださせる。

課題 - 自ペアにとって「有効なプレイ」を獲得するために、どんな視点をもって分析し、練習場面でどんな連携プレイの工夫をしたらよいのだろうか。

2. 対話を促す工夫

これまでの自ペアのプレイ映像、作戦盤、ワークシートを基に、自ペアにとっての「有効なプレイ」を繰り返し試行したり、視点を基に分析したりできる環境の整備をする。

授業の実際



- ① プレイ映像の「分析の視点」を学級全体で共有した後、ペアや班の仲間と自ペアにとって「有効なプレイ」を方向付ける。
- ② プレイ映像、作戦盤、ワークシートを用いることによって「有効なプレイ」を検討していく際に対話が促される。

3. メタ認知を促す工夫

デジタルポートフォリオとして蓄積した映像を基に、分析の視点を生かしてプレイの修正を図るために即座に振り返ったり、検討したりする活動を組織する。

授業の実際



自ペアのプレイ映像を試しのゲームや状況課題練習の際に撮影し、事前に検討を進めておいた自ペアにとっての「有効なプレイ」の修正に繋げる。
また、「有効なプレイ」の説明をタブレット端末で撮影させ、思考した内容の履歴を残す。